

# 幸手市文化遺産だより



VOL. 8

## ● 権現堂桜堤とその周辺の文化遺産

1

### 行幸堤之碑



この「行幸堤之碑」は、桜の花で満たされる権現堂堤にあります。明治10年(1877)1月に建てられました。題字は、明治の元勳・右大臣の岩倉具視の書です。撰文者は明治政府の文学御用掛を務めた近藤芳樹、それを大主記の岡守節が流麗な和様の文字で記し、廣群鶴が文字を刻んでいます。石材は選りすぐられ、造形美豊かな碑として優美に仕上げられています。堤上に悠然とたたずむ姿には、明治という新時代の幕開けを迎えた揚々たる時代の息吹と、天皇ゆかりの気品さえ感じられます。

「行幸堤之記」と題した碑文には、まず利根川一派である権現堂川・鳥川(羽生領悪水落堀:現在の中川)の治水問題解決のため、外国府間から高須賀に至る堤防工事が明治8年(1875)に着工、同年10月に待望の新堤が完成した経緯が書かれています。

あわせて翌9年6月、明治天皇が、東北巡幸の途中でこの新堤を視察したことになみ、これを「行幸堤」と名付けることを許されたこと、建碑費用として下賜金100円が与えられ、明治天皇が立ち寄った御飯茸小屋の跡地に碑が建てられたことなどもわかります。

当時一流の人物たちによる合作であるこの碑は、権現堂川がもたらす災害から解放された先人たちの歓喜と、「行幸」=「みゆき」という地名の由来とをあわせ伝える貴重な文化遺産なのです。

権現堂堤に桜の春が近付いてきました。この堤も、今や桜の名所として全国に名を馳せ、多くの観桜客でにぎわう当市随一の観光名所になっています。

桜への注目度があがると同時に、訪れる方々から、この堤の名前の由来や歴史、堤に見られる文化財について知りたいというお問い合わせが多く寄せられます。そこで、今回は、権現堂桜堤を文化遺産という視点から見直してみたいと思います。わたしたち市民には身近な存在で、普段見慣れているはずの権現堂堤に、こんな歴史があったのか、という発見をご提供しましょう。

1 権現堂川用水記念碑



題字は、内閣技術工學博士 眞田秀吉。昭和8年(1933)11月、権現堂川用水路普通水利組合が建立。昭和7年、政府の農村救済国費補助土木事業により翌8年3月に水路と順礼樋管の堤が完成したことを祝し、その工事概要と権現堂川用水の来歴などを記す。

2 順礼樋管



昭和8年(1933)3月に竣工した権現堂川用水の取水施設。

3 新 瓦



明治25年(1902)に竣工した権現堂川用水の取水水門。明治38年(1905)現在の煉瓦造りに改築された。煉瓦には「上敷免製」の刻印が見え、日本煉瓦が深谷で製造したことを示す近代化を支えた貴重な土木遺産。平成22年(2010)「権現堂川用水樋管群」として土木学会選奨土木遺産に認定される。

4 順礼の碑 (市指定文化財)



順礼親子図作者は、結城素明。昭和11年(1936)、権現堂川用水路普通水利組合が建立。表面に順礼親子の図、裏面に「治水犠牲者人柱 順礼供養之碑」とある。結城素明は、画家で東京美術学校の教授として画家の東山魁夷らを育てた人物。

5 順礼供養塔



題字は、文部大臣の鳩山一郎。昭和8年(1933)4月、幸手商工会が建立。享和2年(1802)の権現堂川の増水で決壊の危険にさらされた権現堂堤を守るため濁流に身を投じ人柱となったという順礼親子と、明治32年(1899)の洪水による順礼樋管決壊に伴う水防活動中の殉職者を供養するために建碑された。

6 行幸堤之碑



題字：岩倉具規  
明治10年(1877)  
1月に建立  
※表紙参照

7 防水記念碑



題字は、遠藤柳作。昭和8年(1933)6月に建立。江戸時代以来、権現堂川による大洪水の脅威から地域を守り続けてきた権現堂堤の水防活動の歴史を後世の人々に伝えるため建碑された。なお、遠藤柳作は、幸手市千塚出身で、行政官・知事・政治家として活躍、武蔵野銀行初代頭取。

8 矢嶋健八郎君碑



題字は、文部大臣の田中隆三。昭和5年(1930)7月、権現堂川で遊泳中に溺れた学友の救助を試みたが、却って溺れなくなった粕壁中学校三年生の矢嶋健八郎を悼んで建碑された。

9 卵 塔



平成2年(1990)に順礼曲輪に近接する場所から掘り出された2基の僧侶の墓石だが、埋設された理由は不明。いずれも、17世紀後半の江戸時代の年号(延宝・元禄)が刻まれている。

10 権現堂河岸跡



江戸時代初期の慶長4年(1599)、伊奈忠次が幸手新宿野原太郎左衛門に与えた定め書にその名が見える河岸で、近隣一帯の村々から徴収する年貢米の津出し河岸として大正時代まで栄えたが、利根川改修の結果、機能を失った。

「権現堂」の地名の由来

権現堂堤、権現堂川に共通する「権現堂」は、現在幸手市北3丁目に鎮座する「熊野神社」に由来する。同社は、江戸時代後期に江戸幕府が編さんした地誌『新編武蔵風土記稿』に「村内に熊野、若宮、白山の権現を合祀せし旧社あれば、此村名起れりと云」と記されている。さらに、「熊野 若宮 白山権現合祀 村の鎮守なり、正智院持、この社古大社にて、村名の起こりしと云も、此権現三社なり」とあり、権現堂の地名の由緒はこの三つの権現に由来することがわかる。

10 権現堂堤 (市指定文化財)



記録では、戦国時代、天正2年(1574)あるいは天正4年(1576)に築かれたといわれる。江戸時代には、御府内御固堤—江戸を守る堤として幕府は手厚く管理し、地域住民も水防活動に尽力し守り続けた。明治9年(1876)には明治天皇が行幸するも、利根川改修に伴う権現堂川の締切り以降、堤防本来の役割を終えたため一時荒廃した。このため大正9年(1920)に地域住民が立ち上がり行幸堤保存会を組織し、由緒ある権現堂堤を保存すべく桜を植樹した。以降、観桜地として名声を博したが、惜しいことに太平洋戦争中や戦後に薪として伐採、昭和24年(1949)から再び植樹され現在にいたる。

11 権現堂川



「新編武蔵風土記稿」の権現堂村の項に「利根川この辺りでは、権現堂川ともいう」とあるように、権現堂川とは、利根川の支流で、その地域呼称である。その流路は、現在の茨城県五霞町川妻あたりから南流し、権現堂堤の北側で東流、現在の幸手市大字西関宿の北側で江戸川と合流したが、昭和初期の利根川改修の一環で流頭・流末とも締め切られ廃川となった。現在、権現堂川のかつての流路の一部は「中川」となり、権現堂川の名称は、現在権現堂調節池(愛称：行幸湖)の流路に残されている。

12 清保堂



清保善士は、熊野山正智院を開山した僧侶。慶安3年(1650)に亡くなり、遺言により当地に葬られる。没後も耳の病に悩む人々の信仰を集め、快癒すれば「銚」(耳の通りが良くなることを示す)を奉納する風習がある。

13 熊野神社



『新編武蔵風土記稿』では、「熊野若宮白山権現合祀」とし、村の鎮守として正智院持とある。江戸時代の権現堂村の地名発祥の神社。

14 マリア地蔵 (市指定文化財)



江戸時代の文政3年(1820)に造立された赤ん坊を右手に抱く地蔵尊(立像)で「子胎延命地蔵大菩薩」の銘文がある。さらに「イメス智言」の文字、鍔文上部に刻まれた十字架、仮託信仰の象徴である魚と蛇の彫刻などから、隠れキリシタンの信仰対象であったと考えられている。





### 《文化財トピックス》

埼玉県東部地区の各市町指定文化財を公開した企画展示「わが町の宝物」に、幸手市から円空仏(7体)と巻島家文書のうち戦国時代の印判状と江戸時代初期の検地帳が出品されました。

会期: 平成23年1月12日～2月28日  
会場: 八潮市立資料館

## 文化遺産保存公開日誌抄

平成21年4月1日～平成22年3月31日

### 平成21年

- 4. 7 石造物資料整理作業(資料室)
- 4. 13 市内水塚調査(天神島・榎瀬)  
市内水塚調査データ整理(資料室)  
石造物データ整理(資料室)
- 4. 14 石造物調査(補遺)  
石造物調査整理(資料室)
- 4. 20 石造物調査(惣新田)  
石造物報告書編集作業(資料室)
- 4. 21 石造物報告書校正作業(資料室)
- 4. 24 民具資料館除草・清掃
- 4. 27 市内水塚調査(榎野地)  
石造物調査カード整理(資料室)
- 4. 28 市内水塚調査(中5丁目)  
石造物調査カード整理(資料室)
- 4. 30 民具資料館見学(さくら小学校)
- 5.11~12 石造物調査カード整理(資料室)
- 5. 19 市内水塚調査(中川崎)
- 5.20~21 歴史的公文書収集
- 5. 22 埼玉地区文化財担当者会総会(市役所)
- 5.26~29 歴史的公文書収集
- 6. 1 石造物補足調査(中川崎)  
石造物調査カード整理(資料室)
- 6.2~3 圏史道関係埋蔵文化財試掘調査立会い
- 6. 4 埼玉協総会及び記念講演会(川口市SKIPシティー)
- 6. 8 石造物データ校正(資料室)
- 6.8~9 歴史的公文書収集
- 6. 10 埋蔵文化財試掘打合せ
- 6. 12 埼玉地区文化財担当者会 民俗部会(白岡町文化財整理室)
- 6. 16 埋蔵文化財試掘調査(榎野地)
- 6. 19 埼玉地区文化財担当者会(蓮田市立図書館 視聴覚室)
- 6.22~23 石造物報告書校正作業(資料室)
- 6. 26 登録文化財事前調査(岸本家)
- 6.29~30 石造物報告書校正作業(資料室)
- 7. 6 埼玉地区文化財担当者会 民俗部会(宮代町役場)
- 7. 7 民具資料館除草  
埼玉協実務研修会打合せ(埼玉県立文書館)
- 7. 9 埋蔵文化財工事立会い(榎野地)
- 7. 10 埋蔵文化財工事立会い(榎野地)
- 7. 13 埋蔵文化財工事立会い(榎野地)
- 7. 14 埋蔵文化財工事立会い(榎野地)
- 7. 15 民具資料館見学(クラブ幸手)
- 7. 17 埼玉協実務研修会(埼玉県立文書館)
- 7. 29 川の立体交差調査(上吉羽・下吉羽・惣新田方面)
- 7. 30 川の立体交差調査(西関宿・惣新田・長間・中野・平須賀・上戸・千塚・松石方面)
- 8. 3 民具資料館消防設備点検・清掃・展示替え
- 8. 6 市教研市内文化財めぐり
- 8.10~12 教員5年次・20年次研修受入
- 8.17~19 教員5年次・20年次研修受入 2回目
- 8. 18 埋蔵文化財試掘調査(天神島)
- 8. 20 埼玉地区文化財担当者会 民俗部会 現地研修会(千葉県立中央博物館 大利根分館)

- 9. 5 第7回市史講座①(市役所)
- 9. 7 上吉羽香取神社 石碑調査
- 9.7~8 石造物報告書校正作業(資料室)
- 9. 12 第7回市史講座②(市役所)
- 9. 18 埼玉地区文化財担当者会(菖蒲町 森下公民館)  
第2回埼玉地区・北埼玉地区文化財担当者会合同研修会
- 10. 2 民具資料館見学(権現堂川小学校)
- 10. 29 民具資料館見学(生きがい大学31期幸手会)
- 11. 17 熊野神社所蔵 権現堂堤修復絵馬 現状確認
- 11. 18 民具資料館見学(幸手小学校)
- 11.24~25 石造物報告書校正作業(資料室)
- 11. 25 民具資料館見学(さかえ小学校)
- 11. 26 埼玉各市町村史料保存活用連絡協議会 視察研修会(栃木県立文書館・芳賀町総合情報館)
- 12. 1 石造物報告書校正作業(資料室)
- 12. 14 石造物報告書編集作業(市役所)
- 12.15~16 石造物報告書用写真撮影(市内)
- 12. 16 民具資料館消防点検
- 12.21~22 石造物報告書校正作業(資料室)
- 12. 22 石造物報告書用写真撮影(市内)

### 平成22年

- 1. 8 石造物報告書校正作業(資料室)
- 1.12~14 石造物報告書校正作業(資料室)
- 1. 20 埼玉地区社会教育指導員 臨地研修会(民具資料館見学)
- 1. 27 文化遺産だより7号用の写真撮影(西関宿・浅間神社、下川崎・安楽院)  
文化遺産だより原稿修正
- 2. 3 相撲博物館(東京都墨田区横綱) 雷権太夫錦絵撮影
- 2.4~5 埼玉協文書取扱講習会(文書館)
- 2. 8 石造物報告書校正作業
- 2. 9 石造物報告書校正作業 カード整理(資料室)
- 2. 19 埼玉地区文化財担当者会(宮代町立郷土資料館)
- 2.23~26 石造物報告書校正作業(資料室)
- 3. 1 石造物報告書校正作業(資料室)
- 3.8~11 石造物報告書校正作業(資料室)
- 3. 13 宮代町郷土資料館講座「幸手宿を歩く」案内
- 3. 23 民具資料館の清掃
- 3. 26 民具資料館見学(小平市郷土史研究会)
- 3. 28 埼玉体験旅クラブ事業シリーズ「旧街道を歩く」案内
- 3. 30 民具資料館外壁修繕

### 幸手市文化遺産だより 第8号

平成23年3月1日発行  
編集: 幸手市教育委員会 生涯学習課  
〒340-0192 幸手市東4-6-8  
TEL 0480-43-1111 内線644  
発行: 幸手市教育委員会